



No.3392

第3710回例会
令和3年9月1日

OBIHIRO ROTARY CLUB DISTRICT 2500

方針「絆」人と人との結びつきを大切に 会長 梅安雅満

2021-22年度国際ロータリーのテーマ 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

■会長報告



北海道にも緊急事態宣言が発せられました。これを受けて本日の帯広ロータリークラブの例会をZOOM例会と致しましたので宜しくお願ひ致します。

今後の例会につきましては只今検討中ですので、決定次第、皆様にお知らせします。又、延期しております家族野遊会につきましても検討中です。

商工会議所の職域接種も始まりました。お待たせしていました私の職域接種も9月9日から始まりますので、ご家族、社員の方々の接種宜しくお願ひ致します。本日は、元グローバル補助金奨学生の田中佑依さんの講演です。ネパールでの支援活動、発展途上国の子供たちが教育を受けたても受けられない現状などをお話していただけますのでご静聴よろしくお願ひいたします。

■プログラム

「海外留学で学んだことを活かした現在の活動」

元グローバル補助金奨学生 田中 佑依 様



ていただきたいと思います。最後には皆様からの質問を頂く時間も取ればと思っております。

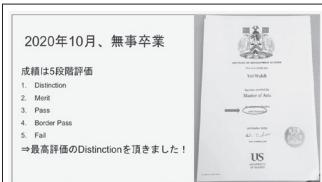


時間ほど海岸沿いの街で、リゾート地としてイギリスの地元民からも人気の場所。



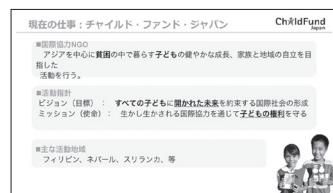
University of Sussex (サセックス大学)という大学の研究機関Institute of Development Studies (IDS) (開発研究所)にて、MA Development Studies (開発学修士)を専攻し、途上国の開発について学びました。

開発学の中でも、私は特に途上国にいる子どもの支援に興味があつたため、学びのテーマを自分で「途上国」×「子ども」という点に絞りました。授業でも、必須の授業である途上国開発学のほか、子どもの権利や子供の保護について学ぶ授業なども履修していました。修士論文では、途上国での孤児院閉鎖の動きに關して執筆しました。



前回例会に参加したときは、修士論文を提出した直後で、まだ卒業はしていなかつたのですが、10月に卒業し、今年の1月に卒業証書が届きました。右の写真が卒業証書です。小さくて見づらいのですが、赤い丸で囲った箇所が成績となります。イギリスの大学院は5段階評価で成績がつけられるところが多いのですが、私は5段階中、最高評価のDistinctionを頂くことができました。初めは、「海外での大学院留学なんて自分に本当にできるのだろうか」と不安に思つたこともありましたが、結果として、1年間で6本・計2万2千字の

課題論文と、1万字の修士論文を書き上げ、更にこのような評価を頂けたことは自分の自信に繋がりました。



大学院入学前から、卒業後は、途上国の子供の支援に関わる仕事をしたいと思っており、昨年の11月から、念願叶い、子どもの支援を行なうチャイルド・ファンド・ジャパンというNGOで、勤務を開始しました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、こちらにも書いてありますように、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもを支援するNGOで、主な活動地域は、フィリピン、ネパール、スリランカ等となります。子供の権利を推進し、全ての子どもに開かれた未来を約束するというビジョンのもと、地域開発事業、緊急・復興支援・アドボカシー活動などを行っています。



簡単に団体の成り立ちも紹介したいのですが、団体の始まりは第二次世界大戦後、アメリカの団体が日本の戦争孤児の支援を開始し、その後日本窓口として基督教尼生堂社会 (CCGS) が設立されました。1975年に、日本の経済成長に伴い、アメリカからの支援を辞退するとともに、次はアジアの貧しい子供たちを支援する側に立つことを決めました。そして、この時、一番最初のスポンサーになってくれたのは、なんと33名の日本のロータリアンだった、とのことです。このお話を聞いて、改めて、昔から様々な場面で活動するロータリーの方々の支援の輪を実感しました。そして、2005年からはグローバルなネットワークである、チャイルド・ファンド・アライアンスに加盟し、世界規模での活動を行っています。



チャイルド・ファンド・アライアンスは、グローバルなネットワークです。チャイルド・ファンド・ジャパンだけでなく、チャイルド・ファンド・オーストラリアやチャイルド・ファンド・カナダ等、12の加盟団体によって構成されており、このネットワークを通じて、世界規模で効率の良い支援を行うべく、協力しあっています。地図にある、濃い緑色の国が、チャイルド・ファンド・アライアンスが支援を行う国々です。現在は、アライアンス全体として、70か国以上で支援を行っています。



そんななかで、現在私が担当している業務ですが、メインはネパールの子どもの教育支援となります。ネパールの田舎では、生徒が掘っ建て小屋のような校舎で勉強せざるを得ないような状況が多々あります。そのような地域に学校の校舎を提供しています。また、トイレの建設もしております。女子学生にとって、トイレがないと、生理中に学校に来ることが難しくなるため、衛生的で男女別のトイレを建設することは、女子児童の出席率を上げるという効果があるということをわかっています。また、ネパールの公立学校は無償化されていますが、その他の必要な学用品や制服が買えずに学校に来れないという児童もいるため、チャイルド・ファンドでは学用品や制服の配布を行っています。また、現在はマスクや石鹼、消毒剤などのコロナ感染対策用品を配布し、生徒が安心して学校に通える環境づくりを目指しています。その他にも、活動は多岐にわたりますが、活動の一つとして、子供の権利教育を行っています。子供が自分にどんな権利があるのかを把握するだけでなく、保護者や教員、そして自治体職員にも研修を行い、周りの大人が協力して、子どもの権利の実現を達成することを目指しています。ネパールの事業地では、未成年の

女の子が結婚し、学業を続けられなくなるという早期婚の問題や、児童労働なども多く、こういった問題に関し、子ども自身だけでなく、周りの大人の理解を促進しています。そして、私はこのネパールの事業を、東京の本部事務所から管轄するという役割をしています。本来であれば、本部担当も、ネパールへの出張を頻繁に行いモニタリングを行うのですが、現在のコロナウイルスによる渡航規制で、まだネパールの事業地を見たことは残念ながらありません。また、昨年11月に勤務を開始したのですが、コロナウイルスによる影響で在宅勤務となっており、東京の事務所にもまだ2回しかいったことがありません。

実は、今年の4月からは夫の仕事の都合で、タイに引っ越しました。とともに在宅勤務ということがありましたので、上司からも東京にいる必要はないといつていただき、タイからのリモートワークということで、現在もタイから仕事を継続しています。ネパールの事業をタイで担当する、という、新しい形での勤務形態ですが、このように柔軟な働き方ができるようになったのも、ある意味コロナによるプラスの変化だなと思っています。

話は戻りますが、チャイルド・ファンド・ジャパンは、政府などからの公的資金、民間企業などからの寄付の他、個人のスポンサーシップの方々からの寄付金で、支援活動をしています。

本日は、少し古いのですが、スポンサーの方に向けて作られたビデオがありまして、私が支援する子供の様子をわかりやすく映しているかなと思いましたので、その一部を流したいと思います。



この写真は、一番最近完成了校舎の写真です。こちらは日本の外務省の資金提供を受けて建設しました。こちらの写真は、新しい校舎で、避難訓練を行う生徒の様子です。この地域は、2015年に起きたネパール大地震で甚大な被害を受けた場所ということもあり、また、日本も地震の多い国ということで、日本の知見を活かした避難訓練の指導なども行っています。こちらの写真は、子どもクラブという、子どもたちに子供の権利などを教える活動の一環です。この写真では、コロナウイルス感染予防などについて子どもたちが話し合ったときの様子です。



事態が起きました。ミャンマー国内は混乱が続き、国際社会も支援を届けることが殆どできていないことから、国境を接するタイから支援物資を届けるという話が出てきました。そこで、私がすでにタイにいるということで、ピースウィンズジャパンという別のNGOからお声かけ頂き、チャイルド・ファンドでの仕事と並行する形で、ミャンマー避難民支援に関する調査事業にも従事しました。ミャンマーでは現在でも多くの人々が迫害を恐れて山の中などに避難を続けています。私は、タイ側からミャンマーの少数民族を支援をする現地団体とのミーティングなどを重ねて、日本の支援の可能性を調査しました。また、緊急支援として、ミャンマー国内の避難民に浄水器を提供しました。パートナーとなった現地団体は、自らも危険を冒して国境を渡り物資を提供している方々で、まさに緊急支援の第一線で働く人々であり、彼らの勇気に心が洗われる想いでした。



以上が、私が大学院卒業後に携わってきた仕事となります。もともと、途上国での子どもの支援に関わりたいと思ったのは、高校生の時に研修旅行で訪れたベトナムで、物乞いをする子どもに出会ったことがきっかけでした。当時、将来何がやりたいのかがわからなくて辛い…と悩んでいた私は、目の前で物乞いをする小さな女の子を見て、教育も受けられないこの子は、将来を選択することすらできないのだという事実に衝撃を受けました。世の中のすべての子どもた

ちが、平等に将来を選択する権利を持つべきだ、とその時強く思ったことがきっかけで、途上国支援の道に入りました。大学卒業後は、新卒で採用してくれるNGO等はあまりないので、民間企業で経験を積み、その後NGOの道に入りましたが、希望する子ども支援のNGOには「子ども支援に関する専門性がない」ということで採用頂けませんでした。

この度、大学院で途上国の子ども支援という専門性を身に着けたことで、ようやく念願の子供支援の道に一步足を踏み入れることができました。現在のネパールでの事業は、チャイルドライツプログラミングといって、子供の権利を軸にして事業を組み立て、モニタリングも行うなど、大学院で学んだ子供の権利に関する知識が存分に生かされています。また、チャイルド・ファンドは、ヨーロッパや北米など、他のNGOとのアライアンスを通した仕事も多いため、留学を通して、英語力を高められたことも、現在の仕事にとても役立っています。現在はコロナで、事業地に行くことはなかなか難しいのですが、コロナが終息したら、事業地に赴き、担当事業地を見るのも楽しみです。

最後になりますが、この度は、大学院で学ぶというとても貴重な機会を頂きましたこと、本当にありがとうございました。大学院で学んだことに関しては、前回お話しさせていただいたので、今回は割愛しましたが、途上国開発分野での専門性というだけでなく、幅広く非常に多くのことを学ばせていただきました。あの1年があったからこそ、今の私があります。そして、現在も、世界には、サポートを必要としている子供たちが多くいます。私一人の力でできることは限られていますが、引き続き頂いたこの素晴らしい機会で学んだことを生かして、将来も、世界のより多くの人々に貢献できる人間になりたいと思っております。改めまして、この度は本当にありがとうございました。

■ゲスト紹介

元グローバル補助金奨学生 田中 佑依 様

■ビジター紹介

RI第2500地区 米山記念奨学生 ナダ・アラヤスクン 様

■委員会報告

・ニコニコ献金

(親睦活動委員会)

・9月結婚記念日祝

梅安 雅満 会員 小水 基弘 会員 高橋 常夫 会員
工藤 大輔 会員 南部 謙治 会員 津山 博恒 会員
野村 一仁 会員 高原 淳 会員

・9月誕生日祝

讃岐 武史 会員 内木 敬典 会員 飛岡 抗 会員
林 泰広 会員 山本 温仁 会員

■会務報告

①帯広RC、清掃活動参加のご案内(ロータリー奉仕デー)

日 時 9月12日(日)午前10時より(1時間程度)

場 所 帯広百年記念館前

帯広百年記念館前の池周辺を清掃します。

②帯広RC、9月29日(水)の例会は、休会と致します。

③RI第2500地区 地区大会開催のご案内

日 時 10月10日(日) 10:20~15:30 (登録受付9:30)

場 所 鈴鹿市観光国際交流センターほか

登録料 7,000円(入会3年未満会員研修会(10/9)に参加の場合には別途2,000円)

④帯広北RC、9月末まで例会は休会と致します。

帯広西RC、9月2日(木)の例会は、Zoomにて開催致します。

帯広東RC、当面の間、例会は休会と致します。

⑤帯広西RC、家族野遊会開催のご案内

日 時 9月12日(日)午前11時

場 所 グランピングリゾート フェーリエンドルフ

※尚、9月9日(木)の繰下げ例会と致します。

⑥帯広南RC、9月20日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。

帯広西RC、9月23日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。

■9月のプログラム予定

9月 8日(水)「休 会」

(プログラム委員会)

9月15日(水)「新会員卓話」

(広報委員会)

9月22日(水)「会員卓話」

9月29日(水)「休 会」



↑携帯サイトができました。
バーコードリーダーで読み込む
事ができます。

例会日 / 水曜日 12:30 ~ 13:30

- 創立 / 昭和 10 年 3 月 15 日
- 事務局 / 帯広市西 3 条南 9 丁目 経済センタービル 4F TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033
- 発行 / クラブ広報
- 委員長 / 関山 岳大・副委員長 / 佐藤 真康・和田 賢二
- 委 員 / 石神 美代・奥田 潔・竹森 直義・野村 一仁・森 光弘
- ホームページアドレス <http://www.obihiro-rc.jp>

例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●認証番号 / 3820 ●戦後再開 / 昭和 25 年 12 月 19 日